

1 学校教育目標	
◇教育目標 三綱領のもと、豊かな人間性や礼節など基本的生活習慣を身につけ、心身共に健康で、自主自立の精神をもち優れた工業技術を習得し、地元産業界で活躍できる人材を育成する。	
2 本年度の重点目標	
◇重点目標 1 生徒理解 ～生徒の多様な適性等に応じた、個を大切にしたきめ細かい指導～ 2 学力の向上 ～基礎学力向上の取組の実施、授業改善～ 3 人間力の向上 ～基本的生活習慣の確立、マナーやモラルの向上～ 4 自己の伸長 ～特別活動、ボランティア活動、部活動、インターンシップ～ 5 進路目標実現 ～キャリア教育の充実、専門性を活かした進路目標の実現～	
◇2つの最重点目標 【生徒理解】～生徒の多様な適性等に応じた、個を大切にしたきめ細かい指導～ ★指標 生徒 私は、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている R4 81.5%→R5 78.9%→R6 90.0% 保護者 一人一人（個人）を大切にした教育が行われている R4 86.5%→R5 87.7%→R6 95.0%	
【学力の向上】～基礎学力向上の取組の実施、授業改善～ ★指標 生徒 熊工定時制の授業は、内容や教え方の工夫があり、とてもわかり易い R4 80.4%→R5 82.1%→R6 90.0% 保護者 定時制の職員は、授業の内容や指導方法を工夫し、わかりやすい授業づくりに努めている R4 90.4%→R5 95.4%→R6 100%	

3 自己評価総括表					
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価
大項目	小項目				
学校経営	本年度の重点目標の具現化	最重点目標の達成	アンケート項目「落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている」「授業は、内容や教え方に工夫があり、とてもわかり易い」の肯定評価を共に90%以上とする。	○授業や特別活動等をとおして積極的に生徒に関わり、目標達成に努める。	C
	定時制課程の活性化	中学校の生徒・教師及び保護者等における本校定時制の教育活動に関する認知度・理解度の向上	「生徒の活躍や特色ある取組」を随時分かりやすく発信し、広報活動を推進する。	○生徒募集委員会を中心にして、学校HP等での情報発信の充実を図る。	A
	特別支援教育の推進	UDの視点を持つて全ての生徒が「分かる授業」の実	定時制の教育内容等の周知	○学校見学会・学校説明会で本校の定時制とミスマッチの無いように事前の説明を確実に行う。	A
		校内の支援体制(組織化)を充実させ、全職員が日常の実践をとおして、支援や指導力の向上に	○計画的(中学校訪問や入学式前面談を含む)に対象生徒を把握し、日常的に情報を共有しながら支援を行う。年3	B	中学校訪問や入学式前面談を実施し、新入生の情報を得、対象生徒を把握する事ができた。また、生徒理解職員研修を年3回実施したことで、職員間で生徒の情報共

		実践、及び対象生徒への就業支援の推進	努め、対象生徒だけでなく全生徒の学習・就労支援を充実させる。必要に応じてSC、SSW及び外部機関との連携を推進する。	回の校内研修と講演会(生徒対象1回職員対象1回)を実施するとともに、日常的な実践に努める。また、校外研修等にも積極的に参加する。		有ができた。しかし、これら情報が、生徒支援においていかに活かされているのか、また、職員の資質や指導力向上にどう活かされているのか課題が残った。外部機関との体制作り(組織化作り)については、現在も苦慮している。
	業務改善の工夫	時間の有効活用	運営委員会・職員会議は必要に応じて厳選して行う。始礼も週2回を継続する。	○運営委員会等で協議した内容は始礼で周知することを徹底する。 ○始礼の進め方も発言が必要であるものか事前にチェックする。	A	週2回の始礼を活用して連絡の周知している。会議等は厳選し、始礼後の時間に設定することで時間の有効活用をしている。事前の打ち合わせ等により会議時間の短縮を図っている。
	働き方改革の推進	時間外勤務の削減と年休取得の推進	全職員の時間外勤務時間を正確に把握する。年間年休取得平均日数の15日以上を目指す。	○タイムカードは職員間の声かけで打刻忘れがないようとする。 ○勤務終了後、すぐに退勤できるような職場環境づくりと、年休を利用しやすい意識付けを図る。	A	タイムカードによる時間外勤務の把握を確實に行うことができた。また、年間年休取得平均日数についても、15日以上を達成することができた。考查時には、定期退勤日を設けている。
学力向上	授業内容の工夫及び充実	分かる授業の実践	生徒が達成感を得られる授業づくりに努め、授業評価で「とても分かりやすい」と答える生徒の割合90%以上を目指す。また、分かり易い授業づくりに努めていると答える職員の割合100%を目指す。	○1年全クラスで「TT授業」を実施する。公開授業や授業評価アンケートを実施し、授業者の細やかな授業準備や振り返りを推進する。また、数学科と建築科で研究授業を実施する。	A	生徒からの授業評価では、分かりやすい授業であるという項目に対して「当てはまる」とやや「当てはまる」の合計は約86%であった。職員の授業評価では、分かりやすい授業づくりに努めているの項目に対して、「当てはまる」と「やや当てはまる」を合計すると約97%であった。
	確かな学力を身に付ける	学力の定着	欠点による単位未修得生徒数ゼロを目指す。	○少人数授業や習熟度別授業・TT授業・ICT機器の利点を最大限に活かし、教科・科目の単位修得のために必要な基礎学力を定着させる。	B	1年生のすべての科目と、2年生の数学でTT授業を実施した。1・2年生の数学の授業では習熟度別授業を展開し、基礎学力の定着を図った。ICT機器については、教師側の利用は見られるが、生徒の利用について検討している。
	各種資格取得による学習意欲の高揚	ジュニアマイスターへの挑戦	ジュニアマイスター取得者の育成を目指す。	○資格や検定に対する取り組みにより、ジュニアマイスター取得に挑戦する。生徒の学習意欲の向上を図る。全ての教科・科目で、学習意欲の向上のため基礎・基本的な学力の定着を意識した学習指導を計画的に行う。	B	資格取得に対する取組により、生徒に数多くの資格に挑戦させるとともに、資格取得ポイントを取得することができた。その結果、今年度は、電気科で、ジュニアマイスター顕彰を2人(シルバー2人)が取得することができた。

キャリア教育 (進路指導)	生徒の進路希望を達成する	進路目標の達成状況	生徒の希望する進路決定率100%を目指す。	○進路希望を基に随時2者面談等を行い、目標設定を明確にしていく。 ○進路指導部・卒業年次学年・各科が連携・情報共有し、就職及び進学の受験対策学習の実施と充実を図る。	B	卒業年次学年団・各学科と情報共有及び連携を図ったことで、生徒の進路実現に向けた動きを支えることができた。進学教科担当者による受験指導も丁寧に行うことでき、よい結果につながった。
	キャリア教育の推進	在学中の就業体験率向上	交流体験学習の全員参加を目指す。就業調査での就業率70%以上を目指す。	○生徒の就業意識を早期より高めさせ、企業からの就業依頼があれば積極的に生徒へ紹介する。個別の就業相談等を充実させる。	A	インターンシップについては生徒の参加状況は良好であった。また就業調査の就業率は72.4%を達成することができた。
	卒業生の定着率向上	卒業生の早期離職等の防止	早期離職者ゼロを目指す	○卒業生の就業状況把握のため企業と情報交換を定期的に行う。卒業生との面談等サポート等を行い離職防止につなげる。	B	全学年対象とした外部講師による進路講話を実施することができた。 外部機関と連携して「ワクワク・ラニング授業、新社セミナーを実施できた。 このことで今後に向けた新鮮な情報を提供することができた。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	5S活動(整理、整頓、清掃、清潔、躰)の徹底	気持ちの良い挨拶を生徒が自然にできる関係づくりをする。	○校内で、教師と生徒が互いにする挨拶できる関係づくりをする。	A	殆どの生徒が気持ちよく挨拶をするようになっている。数名の生徒が自ら進んでの挨拶ができるよう感じた。
			全ての生徒が授業開始前には着席し、授業の準備をする。	○「落ち着いて学習できる環境づくり」のために、全ての教師が時間前に教室に入り準備することを徹底する。	B	昨年度と比較して、殆どのクラスで生徒は待機できている。しかし、いくつかのクラスの数名の生徒が繰り返しの指導にかかわらず改善できていない。
			身なりで注意される生徒を減少させ、自ら身なりを整える心を育てる。	○授業時のはじめに教師が気付き、その場で生徒に対してしっかりと注意し、改善を促す。	B	殆どで落ち着いた状況が広がっている。しかし、注意をするのは限られた職員のようで全ての職員がしっかりと注意をしてほしいと考える
規範意識の高揚	2A運動(「当たり前のこと」を当たり前に、「安全で愛校心を高める環境に」)の推進	交通ルールと交通マナーの遵守を図り、通学方法申請書の提出を6月までに100%を目指す。	○集会や講演会等での交通安全教育の充実を図る。また、登下校指導等では、生徒への声かけを積極的に行うことで安全への意識を喚起する。	B	書類の提出はできている。交通に関する講話の効果ははっきりと出てる。また、登校指導の効果も出ていると思われる。しかし、バイク等の重大事故が数件出ていることは重く受け止め、指導を強化すべきである	
		社会や学校の規則を遵守させ、特別な指導5件以下を目指す。	○担任、学年及び各科と連携し定期的に個人面談、校内巡回・巡回等を徹底する。	B	1月の時点で特別な指導は6件である。(喫煙、バイクの無断通学)担任と科、保護者との密な連携が必要不可欠であると考える。	
人権教育の推進	人権教育推進体制の充実	人権教育の組織的な推進体	推進委員会の開催により、各学年や各部署と連	○学期毎に定例的な推進委員会を実施し、発達段階や人	A	学期毎に推進委員会を開催し、LHR指導案を検討することができた。臨時会を開催し、新たな

		制づくり	携して、人権教育ＬＨＲ等の充実を図る。	権課題に対応したＬＨＲ指導案を検討し作成する。		取り組みとして人権集会を実施した。人権教育講演会を含め全生徒、全職員の研修回数を増やすことができた。
	人権尊重の視点に立った学校づくり	差別を許さない職員の共通意識の向上	校内研修の更なる充実を図るとともに、全職員が年1回以上の校外研修に参加する。	○年間計画に組み込み、計画的に校内職員研修を実施するとともに、校外研修への積極的な参加を推進する。	A	校内研修は年間計画に従い、全て実施ができた。校外研修の参加は職員の希望に添い100%実施ができた。また、外部講師と連携した研修を計画、開催し、昨年よりも回数を増やすことに繋がり成果を得た。
	命を大切にする心を育む指導	自分と他者を大切にする心と態度の育成	教育活動全体をとおして、全教職員が多角的・多面的なアプローチを行う。 講話等のアンケートや感想文を通して、生徒の意識の変容を図る。	○特別支援教育との関連を図り、自他の生命を大切にする心と態度を育成する。 ○外部講師等による講演を年1回は実施し、生命の大切さについて意識の向上を図る。	B	殉難の日、命と友愛の日を通して、命の大切さを学ぶと共に、自分自身の命と向き合う機会が実施できた。
いじめの防止等	いじめの未然防止	いじめ防止取組の充実	年2回以上のいじめ防止推進期間を設定し、啓発に努める。	○6月と11月に心のきずなを深める取組を実施する。職員間で情報共有・連携を推進する。	B	県からの調査だけでなく、本校独自の調査に基づいて職員間で情報の共有ができ、その後の指導に役立つことができた。
	いじめの早期発見	担任を中心とした個人面談の実施	年3回の「アンケート」を実施し、個人面談を各学期に1回以上実施する。	○生徒指導部がいじめに関するアンケートを実施するとともに、結果をもとに担任・SC等の面談を実施する。	A	アンケートの内容から生徒の情報や内面に迫ることができ、担任と生徒の関係をより深めることができることが可能となっている。
	他者を思いやる心を育む指導	情報モラル教育の推進	SNSの適切な利用方法を全生徒に身に付けさせ、「いじめのない環境づくり」を目指す。	○定期的にいじめ防止対策委員会を実施する。家庭との連携を図るため、保護者への情報提供をさらに充実する。	A	12月の段階でいじめの認定数は2件であった。2件とも直ちに担任と保護者で連絡を取り面談をすることで沈静化を図ることができている。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	総合型コミュニケーション	総合型コミュニケーション・スクール	学校運営協議会の開催	○学校評価計画にある目標や全日制に準拠する事項については、協力体制を図りながら取り組む。	B	定時制独自による目標や課題は計画に沿って進め取り組んだ。 全日制と協力体制を取りながら実行できた。
		災害に適切に対応できる学校運営	・防災への意識付けと避難訓練の実施 ・防災研修の充実	○実施時期を見直し早期に防災意識を高めさせる。また定時制に合わせた避難訓練を実施する。	A	4月に避難訓練を実施し、新入生にも早期に避難場所など指導することができた。防災意識を継続させるよう取り組みたい。
	熊定タイムにおける地域連	自分の学びと関連する地域	2年次生の「総合的な探究の時間」において地	○生徒の自発的な活動により、各企業との円滑な交流を	B	インターンシップには原則として学科の学びに関連する事業所において2日間実施することができ

	携 の企業と の交流を 推進	域の関連企業で の仕事内容を体 験し、日常で体 験できない有益 な交流を目指 す。	図るとともに、自ら の進路意識を向上 させ、発表力の育成 を図る。		きた。生徒は学習の大切 さを学ぶと同時に、進路 を考える機会を得た。生 徒の意欲面や礼儀面につ いては、事業所から概ね 良い評価をいただくこと ができた。 インターンシップ発表 会には、内容と態度をし っかりと準備して臨み、 他学年の参考となる発表 を行うことができた。	
	ボランティア活動 の推進	ボランティア活動 の啓発と 実践	高校生として社 会貢献を考え学 ぶ場を設定し、 身近なボランティアを体験させ る。	○地域へ向けたボ ランティアを企画・ 実践し、社会の一員 として貢献できる 機会を設けるとと もに、感謝の気持ち を持たせる。	A	学期毎の地域清掃ボ ランティア及びレオク ラブの活動として、募金 活動等を実施するこ とができた。活動参加者 がさらに増加するよう に、生徒会が主体的に取 り組み、参加者を募る。
工業 教育	ものづくり教育	地域との 交流・貢 献と喜ば れるもの づくりの 推進	実習や課題研究 等で製作した作 品を年間1回以 上、地域へ寄贈 する。	○各科の特徴を活 かし、ものづくりの 年間計画・目標を設 定し、全職員で積極 的に協力する。	A	機械科の実習で製作 した長椅子2台を、ショ ッピングモールさくら の森のTSUTAYA、 サロンド菊池に寄贈す ることができた。 熊本市の要請により アライグマ用巣型わな を建築科にて6基製作。 受け渡しの模様はマス コミで取り上げられ、生 徒の自信になった。
	実習を通 しての知 識・技術 の習得	専門技能・技術 を確実に習得す る。ものづくり への楽しさや興 味関心を高め る。		○4年間で正しい 機械操作や取扱い 方を身に習得する。	A	機械器具に触れる前 にオリエンテーション を実施することで、正 しい操作方法や取り扱い 方を理解させた上で、実 習に取り組ませること ができた。
	安全教育 の実践	事故や怪我0 (ゼロ)を目指 す。		○実習前の安全確 認の徹底を行う。	A	服装を正しくさせ ることと必要に応じて保 護具を装着させること で、安全に実習等を行わ せることができた。な お、作業前には、確実に 注意喚起を行うことが できた。
	各種資格 検定試験 への更なる 挑戦	各種資格 検定への 積極的な 挑戦	1人年1回以 上の資格や検定試 験の受検を推奨 し、全ての資格 試験合格率50 %以上を目指 す。	○年間指導計画に 基づき、工業各科や 担任から検定及び 資格の受験を促す とともに、課外の充 実を図る。 ○検定資料の準備 や指導方法を工夫 し、効率的に取り組 む。	B	1年次生全員が計算 技術検定を受検するこ とができた。また、数多 くの資格検定に挑戦し、 多くの資格を取得す ることができた。全ての資 格での目標達成はでき なかったが、生徒の資格 検定への挑戦と教師の 課外授業での対策を通 じて、基礎学力向上につ なげることができた。

			○資格を活かした進路選択も推奨する。			
ものづくりに関する技能・技術の向上と安全教育	5S活動と安全教育	挨拶をきっかけに意思疎通しながら事故や怪我の無い学習環境の中でのものづくりをめざす。	○科別集会等を通して、規範意識の向上を図る。 ○安全教育の実践と5S活動に取り組む。	A	正しい服装をさせ、必要に応じて保護具を装着させることや、作業前に必ず注意喚起をすることができた。これにより、実習において安全を最優先させ、事故や怪我の防止に努めながら、技術の向上を図ることができた。	
部活動	部活動の充実による学校の活性化	生徒の人間性の育成	集団行動をとおした責任感や協調性、心身の健全な成長を目指す。	○目標に向かって取り組む課程において「課題」を発見し、解決するための方法や機会を経験する。	B	定通総体に向けて、放課後等の時間を有効活用し、目標達成に向けて、活動に取り組んでいた。文化部では文化祭で、活動報告するなどし、自ら計画的な活動ができている。
		魅力ある部活動の実現	活発な部活動運営や各大会での活躍など、魅力を発信できる部活動づくりを目指す。	○計画的に活発な部活動運営を推奨し、また持続させるための適切な体制整備を行う。	A	1つの部活動が県大会を勝ち抜き、全国大会へ出場することができた。また部活動期間外でも、自主的に活動する生徒が増加し、活発な部活動運営ができている。
保健安全管理	学校保健の充実	心身共に健康な生徒の育成	健康診断を通じて、自らの健康チェックを行うとともに、生涯にわたり心身の健康を意識し、行動変容ができる生徒に育成する。	○毎月実施される科別集会で、保体部からの情報提供を行うことで、生徒への啓発に取り組む。	B	毎月「保健だより」を配布し、生徒への啓発に取り組めたが、科別集会での保体部からの連絡が、毎回徹底できなかつた。HPで保護者への周知を行った。
			給食時間を通して、食の大切さに関する情報提供を行い、喫食率60%以上を目指す。	○給食室を衛生的で温かい雰囲気の場所として整備する。掲示物については定期的かつ計画的な添付を心がけ、生徒が学べる環境を作る。	B	調理室の衛生については十分に保つことができた。また、給食室の掲示等も交換し、啓発等を行うことができた。ただし、喫食率については、60%に満たない状況であった。また補食の廃棄が多くあった。
学校安全の充実	環境教育（学校ISO）の推進	生徒の環境教育に対する意識向上を図り、5S活動・2A運動を推進する。	○日々、定時制が主に使用する場所の清掃を徹底する。長期休業前や終業式前に全校清掃を設定する。学校版環境ISOの周知徹底と実践を行う。	A	掃除の機会が減少したが、全校清掃の時間は、しっかりとできた。 また、「5S活動・2A運動」の取組により、多くの生徒が、日頃から当たり前のことを当たり前にできるようになった。	
		学校生活での危機管理（自然災害等を含む）の徹底	保護者などへの連絡体制を見直し、より簡易で効果的な体制を整える。	○日常の連絡からアプリ「すぐーる」を活用し習慣化を促すことで、緊急時に対応できる取組を行う。	A	行事日程・総会日程・総会出欠などアプリを活用し、日常的に使用する連絡手段として確立できている。非常時に有効な連絡手段として継続的に活用したい。

4 学校関係者評価

○学校評価アンケートの結果からは、以下のことことが分かった。

保護者は、「子どもが熊工定時制で学ぶことに満足しており、熊工定時制に入学させてよかったですと思う」に96.5%、「定時制の先生は、授業の内容や指導方法を工夫し、分かり易い授業づくりに努めていると思う」に94.2%、「『ものづくり教育』や『資格取得指導』は、生徒の進路実現に大きく役立っていると思う」に96.5%、と肯定的な評価を行っており、本校の教育活動に高い評価と期待を持っていることが分かった。

生徒は、「熊工定時制では、1年次から計画的に資格取得など、進路実現のための指導が行われている」に90.0%、「私は、いじめは『絶対しない・させない』を守っている」に93.3%と肯定的な評価を行っており、落ち着いた態度で学習に取り組んでいることが分かった。

5 総合評価

○2つの最重点目標について

一つ目の「落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている」は、目標(R6)90%に対して80%の結果（昨年度78.9%）1.1%上がっている。二つ目の「授業は、内容や教え方に工夫があり、とても分かり易い」は、目標(R6)95%に対して85.6%の結果（昨年82.1%）3.5%上がっており2つの項目とも良くなっている。特に、2点目に関しては、さらなる授業改善に努めたい。

○評価の全体像について

評価を行った項目の個数は39であるが、この中で、A評価が20個（昨年16個）、B評価が18個（昨年18個）、C評価が1個（昨年5個）となり、昨年度よりAが4個増えている。その背景として、生徒指導の項目が改善されており、学校生活で落ち着きのある状況が増えていることが挙げられる。

○工業教育について

実習や課題研究を通してものづくりを通した人づくりを実践しており、機械科では熊本市と連携した長椅子の贈呈や建築科のアライグマ捕獲機の製作で地域貢献を行うことができた。各学科の資格取得に向けた取組の中では、同時に基礎学力の向上を図るなどの工夫を行うことができた。さらに、電気科では第一種電気工事士が8名、第二種が5名の合格であり、資格取得への意欲が高まっている。

6 次年度への課題・改善方策

○自己の未来を切り拓く力の育成（エンパワーメントハイスクール）

自己肯定感が低く将来に具体的な展望を持てない生徒に対して、確かな学力や課題解決力を身に付けること。また、地域や社会に貢献する経験や就労体験を通じて自己肯定感と自己有用感を高めることが重要である。そのため、生徒の可能性を広げる支援体制の構築と、進路を見据えたキャリア教育の充実、基礎学力の向上と進路意識の高揚への取組を継続して行く。

○職員の資質向上

変化の激しい時代を生き抜く力を持った生徒を育成するため、「生徒を第一に」との意識で生徒と向き合い、今後も職員の意識改革と研究・修養に努め「チーム学校」を意識して行動できる教員集団を目指す。